

いさわ



都鳥田植踊保存会による「本田植踊り」

第42回胆沢郷土芸能まつりは11月30日、胆沢文化創造センターで開かれ、約500人の観客が地元で長く伝わる演舞の競演を楽しみました。例年6月に開かれていましたが、ことしは岩手・宮城内陸地震の影響で延期されていたものです。

舞台では、地元8団体と特別出演の北上翔南高校鬼剣舞部が得意の演目を披露しました。都鳥田植踊保存会の演目「本田植踊り」は、1年間の農作業の過程を再現したもの。農家の当主と後継ぎ息子役が、伝承されている昔の言葉そのままに掛け合う場面があり、会場の関心を集めていました。

昔ながらの芸を守り伝える
伝統誇る胆沢郷土芸能まつり

まちの話題



みずさわ

見て触れて環境を理解する みずさわエコキッズが里山体験

里山体験自然林内でカブトムシの幼虫の家作り



子どもたちの環境教育を目的に年間をとおしてさまざまな体験学習を展開しているみずさわエコキッズは11月29日、黒石地区で開かれ、メンバー15人と父母らが参加しました。この事業は、平成18年から市と地元の「古代の流れ源流『網代滝』を守る会」（及川進二会長）の共催となっています。

本年度10回目の活動となった今回は、カブトムシの幼虫の家作りと天ぷら廃油を使ったせっけん作りなどに挑戦。参加した常盤小6年の鈴木尊天君は「家作りは力仕事で大変でしたが、カブトムシがたくさん住む森になってほしい」と話していました。

新しい歴史に力強い第一歩 前沢養護学校30周年記念式典

県立前沢養護学校(中村英治校長、児童・生徒192人)の創立30周年記念式典は11月29日、前沢ふれあいセンターで行われ、旧職員や卒業生ら450人が出席しました。同校は、昭和44年前沢区生母に設置された前沢町立赤生津小、同前沢中の束稲分校が前身。54年に県立学校となり、平成7年に同区田畠に移転しました。358人の卒業生を送り出し、近年は自閉症教育やホームページの取り組みなどが全国的な評価を得ています。

生徒代表による誓いの言葉では、高等部2年の渡辺和広さんが「わたしたちも未来に向けて力強く進んでいきたい」と決意を述べていました。



中等部生徒による力強い太鼓

まえさわ

ころもがわ

訪問後も温かい交流が続く 農村体験学習受け入れ20年

式典に出席した白土さん(左)



衣川農村生活体験学習生受入20周年式典は11月27日、サンホテル衣川荘を会場に、区内農家ら約100人が出席して行われました。旧衣川村が昭和63年に修学旅行の体験学習生を受け入れて以来、同区を訪れた児童・生徒数は1万8800人を超え、県内でも屈指の実績を誇ります(平成18年以後はおうしゅうグリーンツーリズム推進協議会としての受入数)。

記念行事では、平成4年度に農村体験学習で同区を訪れた白土知子さん(32)＝横浜市＝と、受け入れをした農家の森松久夫さん(74)＝増味＝の対談や、再訪問をした生徒などその後の交流の様子が紹介されました。

観客の胸打つ和太鼓の響き

市初のジュニア太鼓フェスティバル



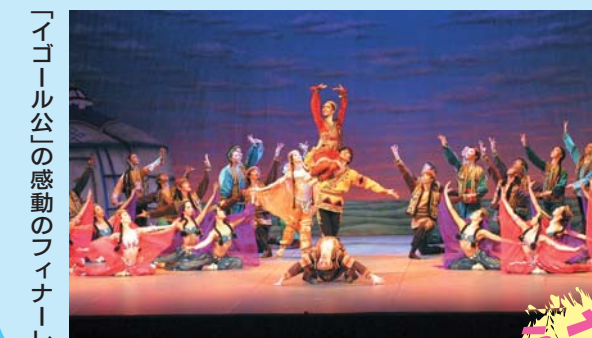
水沢農業高校民族舞踊同好会による黒川さんさ踊り

創設者の故郷で偉業しのぶ 東京小牧バレエ団が追悼公演

日本バレエ界の先駆者、小牧正英さんが創設した東京小牧バレエ団(菊池宗^{さとし}団長)の江刺公演は11月16日、江刺体育文化会館で開かれました。

小牧さん(本名・菊池栄一)は江刺区岩谷堂の出身で、旧満州国のバレエ学校卒業後、ロシアン・バレエ団などで活躍しました。戦後帰国し「白鳥の湖」の日本初演成功や、指導者を輩出するなど日本バレエ界をリード。平成18年に惜しまれつつ94歳で他界しました。

追悼公演として行われた今回は、小牧さんが最も好んだ演目「イゴール公」を上演。最後に出演者全員がステージに花束をささげ、偉大な先人をしのびました。



「イゴール公」の感動のフィナーレ

えさし